山岸ルツ子ピアノリサイタル鑑賞報告

チリー三井物産　森　泰憲

１．チリでのリサイタルの経緯；

日本でも若手美人ピアニストとして名高い山岸ルツ子が 2011 年 3 月 22 日から 4 月 2 日まで、アンドレス・ベージョ大学の招聘でチリを訪問し合計２回の演奏を行なった。実は彼女は昨年７月にもチリ建国 200 周年、並びに作曲家ショパン生誕 200 年の年に、世界最高地の天文台としてアタカマ砂漠に東京大学アタカマ天文台（TAO）が１メートル望遠鏡の完成式典に伴い東京大学、在チリ日本大使館、アンドレス・ベージョ大学の主催リサイタルでの演奏のため当地を初めて訪問し、ヴィタクラにあるアンドレス・ベージョ大学 Casona 講堂で初のソロ・リサイタルを行い約 20 カ国の大使をはじめ 700 余名の満場のチリ人聴衆を魅了した。山岸はそれ以来チリの大ファンとなる一方、同大学も山岸の類まれな高い技巧と力強く、且つ、繊細な演奏に魅せられ、本年は山岸が最も得意とする巨匠リストの生誕 200 年を記念し、又、同大学が毎年主催している年間定期演奏会の第１回目公演の皮切りに最も相応しいと彼女に再び白羽の矢をあて、初演の目玉として招聘した。今回のチリ滞在中には、サンティアゴ市では同大学オーケストラとのピアノ協奏曲を、又、ヴィーニャ・デル・マール市ではソロ・リサイタルと昨年とはまたひと味赴きが違う演目で構成され、クラシック音楽ファンにとってはなんとも贅沢な演奏会となった。

２．ピアニスト山岸ルツ子；

山岸ルツ子はカナダ・バンクーバー生まれで、ピアニストの母親の影響もあり３歳よりピアノを弾き始め、６歳には父親の赴任先のフィリピン・マニラ市で元スペイン総督の長女のステラ・G・ブリモに師事。帰国後桐朋女子高音楽科、同大学音楽学部演奏科ピアノ科で学び、19 歳よりバンクーバーに単身留学、ロシア・レニングラード派の基礎を学んだ。97 年にイタリア・フィレンツェに渡り巨匠ラザール・ベルマンに弟子入り、同氏が亡くなる 2005 年まで最後のまな弟子として師事。恩師の死後日本に帰国後、99 年には東京カザルスホールでデビューリサイタルを行い、それ以降毎年東京・イタリアでソロ・リサイタルを開催すると共に、国内では NHK-FM「FM リサイタル」、NHK-FM「名曲リリサイタル」等数多くのコンサートに出演。近年では国内外での演奏の傍ら、公開レッスン、公開講座の開催やコンクールの審査員を務めるなど後進の指導にも積極的に関与している。これまでに CD７枚、DVD１枚を発売。95 年ローマ国際コンクール３位、97 年カナダ・キワニスコンクールでコンチェルト・ソロの両部門で総合１位、同年カナダ･ブリティッシュコロンビア･アソシヘーッション･パフォーミング･アーツコンクールで第１位受賞。
詳しくは、公式サイト（http://www.rutsuko.com/）参照のこと。

３．リサイタル報告；

①　サンティアゴ公演：

3 月 27 日（日）午後 7 時、ヴィタクラ区にあるアンドレス・ベージョ大学の Casona 講堂（重要文化財）で同大学主催の２０１１年の年間演奏会の第１回コンサートが催され定員 750 名の会場は全席完売の満席であった。演目は、第一部はサンティアゴ・メッサ指揮の下、同大学所属オーケストラがベートベン作曲交響曲第 3 番「皇帝」を演奏。そして第二部で、黒いドレスを艶やかに着こなしたピアニスト山岸ルツ子を迎えオーケストラとの競演で、ベートベン作曲「ピアノ協奏曲第 4 番 Op58」が演奏された。静寂の中、まず山岸のソロ旋律で演奏が始り、その後オケが後を追う様に同じ旋律を奏でる。この協奏曲は３部構成となっており、前半部分は山岸が流れるような軽やかなタッチで主旋律を奏でながら、徐々にオケの演奏と融合し一体化する。最終部分ではスレンダーな山岸が体全体を使いながら力強い動きの早いタッチで演奏し聴衆を魅了した。
当地に到着してわずか 5 日後のオケとの演奏会であったが、数回のリハーサルにも拘らず指揮者、オーケストラと山岸の３者の息がぴったりと一体化した贅沢な演奏であった。
演奏終了後、魅了された 800 余名の聴衆全員が総立ちのスタンディングオーベーション、会場は喝采の大拍手が鳴り続いた。ようやく拍手が収まったところで、山岸がスペイン語で挨拶。スピーチでは今回のチリ公演の直前に発生した東日本大震災と福島原発事故の混乱の中で一時は当地訪問の取り止めも考えたが、悩んだ末にチリも地震国であり昨年も大震災を経験しており、チリ人であれば日本の惨状への理解と被災者を思いやるデリカシーを持っていると信じ、敢えてこの時期にチリに来ることで日本の惨状を伝え、日本への応援エールを送って欲しいとのメッセージを伝える為に訪問を最終決断したと説明。又、当地到着後も本当に沢山のチリ人から心の籠ったお見舞いの言葉と震災経験があるからこその心の底から発する温かい激励の言葉を貰い感激し、思い切って来智して本当によかったと実感し、機会を与えて下さった皆様に大変感謝していると語り、会場は再び盛大な拍手が鳴り響いた。山岸はそれに応えて返礼の意を込めたアンコール曲である巨匠リスト作曲の難曲「ラ・カンパネラ」を奏でた。スレンダーな身体の山岸から想像できない全身を余すところなく使った力強く躍動感がある高度の技巧による演奏に聴衆は知らず知らず吸い込まれ、演奏が終わった後は講堂は喝采の拍手で包まれて初演は大成功裡に終了した。

② ヴィーニャ・デル・マール公演；
3 月 31 日（木）午後 7 時よりヴィーニャ・デル・マールのアンドレス・ベージョ大学のロス・カスターニョス構内にある講堂（定員 420 名）での演奏会も全席完売となり地元チリ人音楽愛好家で満席となった。
演目は、ハンガリーの巨匠リスト生誕 200 周年を記念し、全 6 曲全てリストの作品でありリストファンには嬉しい至福のリサイタルであった。演奏された曲目は下記の通り。

- パガニーニによる大練習曲第 3 番「ラ・カンパネラ」
- 愛の夢第３番
- ハンガリアン狂詩曲第 2 番
- シューベルト（リスト編）「糸を紡ぐグレートヒェン」

・ シューベルト（リスト編）「魔王」
・ スペイン狂詩曲

山岸はリストの作品を最も得意とするが、リストの曲自体はバイオリニストのパガニーニの余りの技巧のすさまじさに圧倒されたリストがピアノでそれを具現した為、リストの曲の演奏には相当高い技巧が要求されるが、今回の山岸の演奏は彼女の類まれなる高い技巧が随所で披露された内容の濃い演奏であった。黄金色のシルク製のシックなドレスを華やかに着こなした細身の全身のどこからあの様な力強い男性的なエネルギーが湧き出てくるのか。一方で躍動感あり小走りする様に繊細且つ魔法のようになめらかな指使いは圧巻であり聴衆は息を殺して聞き入り、無意識のうちに山岸の世界に引き込まれた。幕間で山岸はスペイン語で挨拶し、日本の震災の状況と到着後戴いた暖かい励まし・お見舞いの言葉への感謝の意を表し、聴衆から暖かい拍手を浴びた。最後の曲「スペイン狂詩曲」の凛とした華麗な演奏が終わると、聴衆は総立ちとなるスタンディングオーベーション。山岸はアンコール曲として、激しい旋律のリストとは正反対の静寂で女性的で流れるようなタッチでショパンの「ノクターン遺作変ハ短調」を演奏し始めた。会場はシーンと静まり返り山岸の感情移入された丁寧で柔らかなタッチの演奏に静かに飲み込まれてしまう錯覚に襲われる素晴らしい演奏であった。

４．<u>インタビューと裏話；</u>

演奏後、山岸ルツ子さんにインタビューを行なったので、彼女の知られざる一面とお人柄を簡単にご紹介します。

【個人丸秘情報】誕生日は２月 20 日生れの魚座。血液方はＯ型。２人姉妹の妹。バンクーバー生れの海外育ち（カナダ・フィリピン・イタリア）の影響もあるのか大変おだやかで明るく朗らかな性格。又、一見理知的で繊細な女性に見えるが、実は行動力があり自分の意見をはっきりと表す男性的な面を兼ね備えた大変魅力的な淑女。完全な夜型人間。（一部省略）

【チリとの出会い】前回の来智でチリとチリ人が大変気に入り今回の２度目となる訪問は大変楽しみにしていたが訪問直前の東日本大震災と福島原発の事故があり、一時は訪問を躊躇した。その後悩んだ末に訪問を決意し来てみると、出会った沢山のチリ人から心の籠った暖かい励ましの言葉やおもてなしを受け、益々チリとチリ人が大好きになり、来年もまた戻ってきたいと。今回の訪問や日本の震災者の人間的な姿を通して改めて「人間と人間の絆」の大切を痛感し、将来はピアノを通じて日本とチリの架け橋になれたら素晴らしいとの夢も語られてました。

【当地での苦労話】

チリのピアノは骨董品的なものが多く、調律も日本の様に確りと行なわれないこと、又、会場の音響効果も決して良くはなく、今回２箇所で演奏したが、それぞれのピアノに問題があり、個々のピアノの特徴を掴み取り、その欠点をカバーすることに大変腐心し苦労したと吐露。サンティアゴの演奏会のピアノはスタインウェイの名品ではあるものの、140 年もののアンティークであるために現代のピアノとは違い最高音域部分の鍵盤が３つも少ないという。ビーニャでの演奏会

場は舞台の床に絨毯が敷かれ、絨毯が音を吸収してしまい響きが生まれず、身体そのものを使って響きを生み出す方法に注力し、又、ピアノの鍵盤が重く反応が鈍いために腕と肩への負荷大きく大変疲れたとのこと。この様な経験は以前は無く初めてで、今回の演奏を通じて与えら得た環境・楽器にいかに臨機応変に対応するかを学ぶことが出来て、ある意味大変収穫となったとのポジティブ発言あり。（流石、プロ！）。

５．<u>今後の予定；</u>

帰国後直ぐの４月はコンクールの審査員の仕事が３回、コンサートが１回。又、６月 7 日 12 時より「東日本大震災チャリティーコンサート」をカワイ表参道で開催予定。
年間 12-15 回の演奏会を国内外で行なっているが、特に本年は後半に自主演奏会の企画しておりこれに全身全霊を注ぐとのこと。（完）

＜サンティアゴでのコンサート風景＞

＜大学 Karadima 理事一家、林大使ご夫妻他と＞

＜ヴィーニャ会場で挨拶するルツ子さん＞

＜ビーニャでのソロリサイタル＞